



荒川中学校閉校記念

あらかわ

荒川中学校閉校準備委員会



荒川中学校の閉校に寄せて



那須烏山市長
大谷 範 雄

平成26年度を以って、歴史の幕を閉じることとなった那須烏山市立荒川中学校の閉校記念誌発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本校は、昭和22年に荒川村立荒川中学校として創立して以来、幾多の年月を過ぎ、地域の皆様と共に歴史と伝統を築いてこられました。その歴史の中には、数多くの優秀な人材を輩出いただき、市の発展に多大なご尽力・ご協力をいただいております。改めて荒川中学校の関係者各位に深甚なる敬意を表する次第でございます。

近年の人口減少と少子高齢化等により地域環境が大きく変化する中で、教育環境、教育効果等を考慮し統合にご英断をいただきました地域の皆様や学校関係者の皆様の心情を思いますとき、愛惜の念いかばかりかと拝察申し上げます。

これからは、新中学校となり、将来を担う生徒たちが、明るく活気に満ち、心身ともに健全に育ちますよう地域の皆様には、なお一層のご支援・ご協力をいただきながら、本市の総合計画基本構想に基づき、市独自の学力向上対策、知・徳・体の文武両道教育の充実、家庭・地域・学校と連携を密にした安全安心な教育環境づくり等をさらに推進し、子ども達の育成支援に力を注いでいきたいと考えています。

結びに、今日まで荒川中学校を支えご尽力くださいました関係各位に深く感謝を申し上げるとともに地域の皆様のさらなるご発展を祈念しまして閉校に寄せてのご挨拶といたします。



那須烏山市教育委員会教育長
池 澤 進

昭和22年4月創設の荒川中学校が、68年に及ぶ歴史の幕を閉じようとしております。その別離と喪失に際し、本校が地域との信頼関係を基盤に築かれたその伝統を想うとき、この学び舎を巣立っていかれた多くの同窓生を始め、地域、PTAの皆様の「万感胸に迫る」の心境を察せずにはおられません。市教育行政の責任者として、本校の教育を新設中学校に継承する責務を痛感しております。

那須の峰と荒川のほとりに立つ学び舎。学校教育目標に「心豊かでたくましく、未来をきりひらく生徒」を掲げ、誇りをもち、希望をもち、誠をもてる生徒の育成に情熱を注いで参りました。地域には人情味豊かで心温かな人々が住まい、教育と地域づくりに御支援、御協力をいただきました。「県美術教育振興会長賞」、「人権作文コンテスト学校賞」など数々の実績を残すとともに、文部科学省指定「学力向上フロンティア事業」等に研鑽を積まれました。今日までに卒業された8千7百余名は、こうした誇るべき自然や地域性、本校の教育が育んだ賜物と言えるでしょう。

しかしながら近年の少子高齢化による生徒数の急減は、学校における教育活動を阻害するに至りました。この有事にあたり、下江川中学校と統合するという苦渋の案を了承されました、本地区の教育にかける情熱と叡智に心より敬意を表します。やむなく閉校となる当校に惜別と寂寥の感は絶えませんが、その歴史と伝統は同窓生、地域の方々の心の中に受け継がれ、新設中学校で醸成されることと確信いたします。

結びに、今日までの間、当校を支えて下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。更なる荒川地区の発展を祈念申し上げるとともに、今後の新設中学校への御支援をお願い申し上げ、寄稿とさせていただきます。



荒川中学校同窓会長

久 郷 浩

「荒川の流れのほとり 那須の峰 さやかに仰ぐ」と、歌い継がれた校歌の荒川中学校が、平成27年3月に閉校になります。同窓生として母校の校名がなくなるのは寂しいものです。私の場合、小学校も統合により廃校になり、地区の公民館になりました。また、高等学校は名前も場所も変わりませんでしたが、高校再編により女子高等学校と統合されました。

荒川中学校は、昭和22年5月に開校、平成27年（昭和90年）3月には68年間を経過します。この間、約8千7百名の生徒が社会に巣立って、それぞれの分野で活躍しています。

私が通学していた荒川中学校が東原にあった昭和36年頃は、1学年が5クラスあり、1クラス50人学級で教室が狭く感じました。理科室等を増設したのを覚えています。その当時は、1年から3年までの生徒数が600名以上在籍していました。「とちぎ国体」が行われた昭和55年頃は、全国で生徒数が増え、国では児童生徒急増対策が行われ、小学校及び中学校を分離した新設学校が開校されましたが、今は、廃校におわれています。

我が母校の荒川中学校でも、近年の少子化による児童生徒数の減少には、歯止めがかからず、中学校として適正規模でなくなってきました。

荒川中学校は、下江川中学校と統合して、新生南那須中学校となります。場所も同じです。私は今回の統合により、下江川地区の生徒さんと一緒になることで、旧下江川と旧荒川がこれで南那須として一つになったと思います。

生徒数が増えることにより、学習や運動が活発になることを期待しています。下江川中学校・荒川中学校の良好の良き伝統を引き継いで、同窓会は、当分の間、現在の下江川中学校同窓会と荒川中学校同窓会を残しておきたいと思います。荒川中学校同窓会にご理解・ご支援をいただいた地域の皆様に感謝致します。



荒川中学校PTA会長

増 山 体 司

歴史と伝統のある荒川中学校の閉校記念誌発刊にあたり、PTAを代表致しまして一言ご挨拶を申し上げます。

平成27年3月、多くの卒業生を送り出してきた荒川中学校は、68年の長き歴史に幕を下ろします。時代の流れとはいえ、荒川の清流が田畑を潤すこの地から「荒川」の学校名がなくなる事は誠に寂しく残念でなりません。

思えば3年前、私は縁あってPTAの副会長として学校運営に触れる事となった時、こうして今、荒川中学校の閉校記念誌の文章を考えている姿を想像出来たでしょうか。多分に諸先生方や卒業生の皆さん、又生徒の皆さんも荒川中学校が閉校するとは考えてもみなかった事でしょう。

しかしながら、少子化の進む昨今、学校再編は避けて通ることが出来ません。

中学校は、生徒が子供から大人への成長過程において非常に重要な役割を果たしています。統合するにあたり在校生の皆さんは、不安と期待が入り混じった複雑な気持ちだと思いますが、勉強や部活動で競い合う仲間が増え、今後更に自分を高める事が出来る機会となるでしょう。新しい仲間と共に「南那須中学校」としての新たな歴史を一步ずつ歩んで行ってほしいと思います。

私も統合準備委員として新たな中学校の再編に携わせていただいておりますが、将来を担う生徒の未来が明るく健やかなものであるようにと思いを込め、緑豊かなこの地で新たに多くの実が実り、生徒一人一人がそれぞれの道へと羽ばたいていく事を願ってやみません。

最後になりますが、これまで荒川中学校を支えていただきました教職員や学校関係者を始め、保護者の方々や地域の皆様など、多くの皆様に深く敬意を表すとともに心より感謝を申し上げます。

学校長 吉 成 伸 也

昭和22年、学制改革により開校した荒川村立荒川中学校が68年の歴史に幕を下ろそうとしています。開校当時は小学校の校舎を借用しておりましたが新校舎の完成とともに東原地区に移転、その後数度の増改築を経て現在の鉄筋コンクリートの校舎に移転をしたのは平成4年のことでした。

そのときの様子が写真や文書で残されておりますが、目を通しますと地域の方々の熱い思いや当局のご苦勞がひしひしと伝わって参ります。まさに地域と共に歩んできた、地域に支えられてきた中学校でございました。そのような学舎がこうして幕を閉じるということは筆舌に尽くしがたいお気持ちがおありのことと察します。8,000有余名の卒業生に支えられて、本校は伝統を受け継いで参りました。一時は700名を超える生徒数を誇り県内外で多くの生徒が活躍した実績を持ち、また卒業生の社会での活躍が本校の教育活動の成果となっております。

「親しさは家族(うから)となして…」校歌の一節です。「この学校の生徒は家族のようですね」と話していた職員がおりました。幼い頃からともに遊び、ともに学んできたためでしょう。家族には空気のような存在感があります。苦しいときに寄り添って共に生き、いつでもそこにいるものです。そのような雰囲気が本校の生徒たちには漂っているのでしょう。

保護者、地域の皆様、そして同窓生の皆様、数々のご支援、本当にありがとうございました。どのような感謝の言葉を探してもその大きさに値する言葉は見つかりません。また8,702人の生徒を教え導いてくださいました歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様、お疲れ様でございました。この場を借りまして閉校をご報告させていただくとともに、新中学校に対してのご支援をお願いしたいと思います。

大きな時の流れにしたがって、本校は新たなスタートを切ることになります。どのような学校になるのでしょうか。おりしも大規模な改修工事により校舎のイメージは一新されました。荒川村と江川村が町村合併により誕生した南那須町を学区とするあらたな中学校に地域の「歴史と伝統」、そして「調和と融合」を期待したいと思います。

歴代校長

代	氏 名	在 職 期 間
1	久 郷 道 夫	昭和22年4月～昭和30年3月
2	古 家 友 衛	昭和30年4月～昭和41年3月
3	永 田 崇 夫	昭和41年4月～昭和43年3月
4	岡 崎 清	昭和43年4月～昭和49年3月
5	清 水 才 治	昭和49年4月～昭和54年3月
6	藤 井 優	昭和54年4月～昭和57年3月
7	青 山 義 雄	昭和57年4月～昭和60年3月
8	高 沼 理 夫	昭和60年4月～昭和62年3月
9	塚 原 宣 夫	昭和62年4月～平成2年3月

歴代PTA会長

年	氏 名	在 職 期 間
4	大 谷 範 雄	平成4年4月～平成5年3月
5	藤 田 善 実	平成5年4月～平成6年3月
6	田 中 順 一	平成6年4月～平成7年3月
7	藤 川 伸 一	平成7年4月～平成8年3月
8	久 郷 浩	平成8年4月～平成9年3月
9	平 山 隆	平成9年4月～平成10年3月
10	久保居 光一郎	平成10年4月～平成11年3月
11	檜 山 徳 夫	平成11年4月～平成12年3月
12	佐 藤 正 雄	平成12年4月～平成13年3月
13	小 森 敏 明	平成13年4月～平成14年3月
14	中 村 東	平成14年4月～平成15年3月
15	益 子 浩	平成15年4月～平成16年3月
16	篠 崎 孝 光	平成16年4月～平成17年3月
17	関 真 寿	平成17年4月～平成18年3月
18	城 野 章	平成18年4月～平成19年3月
19	吉 川 佳代子	平成19年4月～平成20年3月
20	塩 谷 文 久	平成20年4月～平成21年3月
21	小 池 友 秋	平成21年4月～平成22年3月
22	金 子 政 美	平成22年4月～平成23年3月
23	吉 葉 克 則	平成23年4月～平成24年3月
24	菊 地 唯 一	平成24年4月～平成25年3月
25	村 上 幸 永	平成25年4月～平成26年3月
26	増 山 体 司	平成26年4月～平成27年3月



第10代 久 郷 祐 廣
平成2年4月～平成5年3月



第11代 田 崎 貞 吉
平成5年4月～平成8年3月



第12代 宮 本 祝
平成8年4月～平成13年3月



第13代 高 田 林 平
平成13年4月～平成18年3月



第14代 郡 司 恵 一
平成18年4月～平成19年3月



第15代 古 家 丈 行
平成19年4月～平成23年3月



第16代 郡 司 広 美
平成23年4月～平成25年3月



第17代 吉 成 伸 也
平成25年4月～平成27年3月

同窓会長

初代	佐 藤 昇	昭和57年4月～平成12年3月
2代	久 郷 廣 文	平成12年4月～平成14年3月
3代	渡 邊 美 樹	平成14年4月～平成18年3月
4代	小 濱 克 巳	平成18年4月～平成20年3月
5代	塩 野 哲 男	平成20年4月～平成24年3月
6代	久 郷 浩	平成24年4月～平成27年3月

同窓会顧問

大 谷 範 雄
玉 造 恵 一



思い出のアルバム



旧校舎の航空写真



懐かしい木造校舎と体育館



制服通学



新校舎へ机椅子運び



新校舎に初雪



地域交流も盛ん



茶臼岳登山



荒川中学校最後の体育祭での記念セレモニー



ブレザーの新しい制服



私達の母校



新校舎建設、校庭造成



新体育館



新校舎とプラタナス並木

新校舎の航空写真



平成25年 南那須地区駅伝大会で見事男女アベック優勝



校訓を刻んだ石碑



毎年美しい花を
咲かせてくれたしだれ桜



平成26年10月4日 最後の荒川祭：卒業生も参加した全体合唱

荒川中学校校歌

作詞 田村水啼
作曲 杉井芳野

一
荒川の流れのほとり
那須の峯 淨かに仰ぐ
うましくも この氣を承けし
学園ぞ久遠の生命
ともに我等 誇りもて
いざや学ばむ

二
野茨の繁りを拓き
吹き荒ぶ 嵐に克ちて
護り行く 文化の塔に
光あれ 自由の伝統
ともに我等 誠もて
いざや学ばむ

三
澄みわたる大空のごと
遥かなる 理想を望み
親しさは 家族となして
気高くも明るく生きん
ともに我等 希望もて
いざや学ばむ

沿革

- 平成4年4月1日 新制服制定
- 平成4年7月31日 新校舎落成
- 平成4年8月27日 開校記念行事
- 平成5年2月26日 新校舎・体育館落成式
- 平成6年11月17日 県中学校人権作文コンテスト学校賞受賞
- 平成7年2月25日 教育環境緑化事業プラタナス植樹
- 平成7年3月9日 県美術教育振興会会長賞受賞
- 平成7年12月22日 県PTA連合会委嘱研究PTA紙上発表
- 平成8年12月(～9年) 県・町補助事業公園緑化施工完成
- 平成9年(～10年) 文部省・県教委指定「人権教育・同和教育研究指定」
- 平成11年12月10日 全国中学生人権作文コンテスト学校賞受賞
- 平成14年(～16年) 文部省指定「学力向上フロンティア事業」
- 平成15年4月1日 特殊学級「友愛学級」設置
- 平成17年3月 全国少年消防クラブ運営指導協議会消防庁長官賞受賞
- 平成17年10月1日 町合併により那須烏山市立荒川中学校と改称
- 平成18年4月1日 南那須教育センター協力校
- 平成20年4月1日 那須烏山市英語コミュニケーション特区推進校
- 平成24年8月31日 空調設備設置
- 平成25年4月1日 特別支援学級(知的)設置
- 平成26年3月6日 電子黒板設置
- 平成26年4月1日 特別支援学級(自・情)設置
- 平成26年7月31日 校舎大規模改修

発行日/平成27年2月21日

発行/荒川中学校閉校準備委員会

印刷/エムスセクション

表紙写真/古代バスから校舎を臨む

裏表紙写真/プラタナス並木

ともに平成17年(2005年)